

キーワード：教科等横断的な情報モラル教育、活用型の情報モラル教育、発信する力

I 研究について

1 情報モラル教育に関する学校の課題

本校は小中一貫の義務教育学校であり、前期課程と後期課程の学びのつながりを見据えながら指導することができるメリットがある。ICT 機器を積極的に活用した授業を全教科で行っており、生徒は日常的にタブレット端末に触れているため、タブレットを操作する技能に優れている。一方で、昨年度児童生徒を対象に行った学校生活アンケートから、メディアの使用時間や利用方法、情報モラルに関して問題や課題が多いという現状である。

昨年度より情報モラル教育研究校の指定を受け、諸課題解決のために組織的に取り組んできた。具体的には、学級活動や道徳科での情報モラル教育を取り入れた授業の実践や国語科や技術科を中心に教科等横断的な視点で情報モラル教育を進めてきた。これらの実践から、教員の情報モラル教育への関心や必要性の高まり、生徒の SNS やオンラインゲーム内でのトラブル等の減少などの成果を得ることができた。

「犯罪被害を含む危機を回避できる生徒、受け手の状況を踏まえて発信できる生徒、責任をもって適切に情報を扱う生徒」が本校の情報モラル教育における目指す生徒像である。今年度は、目指す生徒像の実現に向け、国語科や技術科ばかりでなく、**他教科等でもさらに教科等横断的な視点**で情報モラル教育の実践を積み重ねていく必要がある。

情報モラル教育を発達段階に応じて体系的に推進していくことが大切であり、今後、前期課程・後期課程の系統性を重視した義務教育学校だからこそできる、計画的かつ継続的な情報モラル教育の実践を深めていきたい。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時 期	実 施 内 容
5月10日	第1回 校内研修「メディアリテラシー育成事業の方向性」について
6月16日	第2回 校内研修「生徒・保護者アンケート」について
6月24日	○ 生徒のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する意識調査 1回目
9月6日	第3回 校内研修「教材の作成」について
9月13日	○ 研究授業（6年・8年 総合的な学習の時間）
9月20日	第4回 校内研修「情報教育全体計画」について
10月24日	第5回 校内研修「教材の作成」について
11月15日	○ 研究授業（9年 音楽科） ○ ふくしま情報モラル教育アドバイザーによる講演会
11月22日	○ 生徒のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する意識調査 2回目
12月12日	第6回 校内研修「実践のまとめ」について

Ⅱ 研究の実際について

1 校内授業研究会での実践等

今年度は、児童生徒の情報モラルについての能力の向上をねらいとし、「全ての教員が自信をもって情報モラル教育を指導できるようにする」ことを目指して、各教科において情報モラル教育の視点を取り入れながら、**教科等横断的な視点での授業実践**に重点をおいた研究を進めてきた。

(1) 第6・8学年 総合的な学習の時間 「ホームページの記事を作成しよう」

① ホームページの特性

本校は、1年生から9年生まで在籍し、地域と関連した行事も多いため、本校のホームページの記事の種類や量が豊富である。それにより、保護者だけでなく、地域の人なども閲覧することが可能なことに気付かせることができた。さらに、ホームページの記事が、写真や記事の内容に十分配慮した上で、掲載されていることに気付かせた。

② 情報をネットに公開する際の注意点と発信する力

算数科・数学科の合同授業で、どのようにすれば上手に情報を伝えることができるか、ということを考えさせた。実際には、教師が例として作成した記事を紹介し「いつ」「だれが」「どのような活動内容だったか」という誰が見ても、どんなことをしたかが分かる情報を載せることが必要だと気付くことができた。また、「個人情報」や「写真に写っている人の気持ち」、「相手の許可が必要」など、情報リテラシーの観点からも注意すべき事に気付くことができた。

この授業を通して、ホームページだけでなく、SNSなどにも掲載、投稿する際には、個人情報に気を付けたり、相手に同意をとったりすることが大切であることに気付くことができた。また、受信する側のことを考え、分かりやすい記事にする必要があることにも気付くことができた。児童生徒は、意見を交換していくなかで、「この内容だとうまく伝わらないよね。」や「名前が分かっちゃうから、違う写真にした方がいいよね。」という発言があるなど、**注意点を自分事として捉える**ことができた。



実際に作成した記事

(郡山市立湖南小中学校ホームページより)

(2) 第7学年 音楽科「和楽器に親しみ、そのよさを味わって演奏しよう」の実際

① 教科等横断的な視点での情報モラル教育

7年生の「和楽器に親しみ、そのよさを味わって演奏しよう」の題材において、日本音楽のよさが伝わるよう創意工夫をしながらわらべうたを演奏することを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。篠笛を使って、はねる奏法と音と音のつながり方の関わりを理解するとともに、奏法を活かし、演奏の様子を発信するということが最終目標とした。

② 情報を発信する力

篠笛の音楽の日本らしさについて、どのようにすれば上手に伝えることができるか意見を交換させ、実際の演奏の動画を全世界に公開するべきか、限定公開にするべきかを考えさせた。その際、どちらに公開する場合でも注意しなければならない点をタブレット端末を活用し、考えさせた。また、公開する範囲によって、それぞれのよさがあることについて理解を深めることができた。

③ 活用型の情報モラル教育

篠笛の音楽の日本らしさを伝えることと公開する際の注意すべき点を考えさせ、それに基づき、演奏会を行い、それと同時に撮影会も行った。タブレット端末を活用して、撮影・録音を生徒自らが行った。タブレット端末を活用しながら情報モラルについて考えることで、今後、情報を発信する際の注意すべき点やリスクについて自分事として捉えることができた。

2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロイロノートを活用し、生徒がいつでも本時の学習内容を確認できるようにする。 □ 情報モラル教育の視点から、日本音楽の“よさや魅力を伝える”ことが大切だということを意識させる。
15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はたるこい」「かえるが鳴くから」「正月さまごちそう」の3曲を、はねる音の長さや間などの表現の仕方をグループで <p>ここで情報モラルについて触れた</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループがそれぞれで考えたのか、自分たちの思いをどうやって練習できるように、必要に応じて発言する。 ◇ はねる奏法と、音と音のつながり方の関わりを理解しているか。<観察><フリップ>
10	<ul style="list-style-type: none"> □ 全世界に向けて公開する場合、学校の関係者のみの限定公開にする場合のそれぞれのケースで考える。また、注意すべき点だけでなく、音楽科としてのねらいである、日本音楽のよさを発信するために積極的に記録した方がよいことについても考える。生徒から出た意見やアイデアについて、ロイロノートの提出箱を活用して共有する。(手立て2)
15	<ul style="list-style-type: none"> ○ フリップをディスプレイに映し、グループで創意工夫した点を共有する。 ◇ はねる奏法を生かし、日本音楽のよさが伝わるように創意工夫をしながらわらべうたを演奏しているか。<演奏(器楽)>



2 情報モラル講演会の様子

(1) 情報モラル講演会（生徒対象） 令和4年11月15日

講師 郡山女子大学 短期大学部 地域創成学科 准教授 山口 猛 様

情報モラル講演会として、山口先生から生徒対象に「ネットと共生するための工夫」と題し、「中学生のネットトラブル事情」と「ネット利用と学力の関係」の2つのことについて、講演していただいた。「ネットトラブル事情」という話では、統計データをもとにしたネットトラブルの傾向や実際の具体的なトラブル事例を紹介していただ



いた。特に、トラブル事例の紹介では、なぜそのようなことが起こってしまったのか、どうすれば回避することができたかなど、ネットとの上手な付き合い方について話していただいた。また、ネットと付き合うコツとして、「鈍感力」、「大人に相談」、「第一印象に流されない」という3つのことについても話していただいた。その結果、生徒にSNSやオンラインゲームが犯罪の入り口になる恐れがあること、その犯罪は身近にあるということを気付かせることができた。また、生徒はネット利用と学力の関係をj知ることjで、自分の時間の使い方、タイムマネジメントについても考えることができた。生徒の実態、現状に即した内容であったため、生徒の理解が深まった。

3 校内での情報モラル教育を取り入れた教科等横断的な実践

(1) 国語科の授業での実践

8年生の「漢詩の風景」の単元において、漢詩に描かれたものをイメージしやすいように絵で描くことを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。漢詩の風景を1枚の絵で表すことが容易でないことから、動画で撮影した方が良いことに気付かせた。その際の注意点として、必要ではない情報が映らないよう厳選して動画を撮影した方が良いということを確認した。

(2) 社会科の授業での実践

9年生の「私たちの暮らしと経済」の単元において、身近な事例を通して、消費生活が契約によって成り立っていることに気付かせ、契約の際に注意すべきことについて、自分の考えや意見をまとめることを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。サイトの情報をしっかり確認することの必要性に気付かせ、インターネットショッピングを利用する際、トラブルを防止するための注意点を考えさせた。

(3) 理科の授業での実践

8年生の「天気の様子と日本の天気」の単元において、数日間の天気図から自分たちの住んでいる地域の天気を読み取ることを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。インターネットで必要な気象要素や天気図の情報を収集する際、正しい情報ばかりとは限らないことを理解し、情報を見分けることの大切さを確認した。



(4) 英語科の授業での実践

9年生の「Unit5 A Legacy for Peace」の単元において、世界の偉人について、イメージマップをもとに、伝えたい内容を適切な表現を用いて英語で紹介することを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。世界の偉人についてインターネットで情報を収集し、インターネット上の情報は正しいことばかりとは限らないことを理解させ、情報を見分けることの大切さに気付かせた。

(5) 保健体育科の授業での実践

8年生の「ダンス」の単元において、ポイントを意識してダンスを教えることを目的として、情報モラル教育を取り入れた授業を行った。8年生が授業で学んだことを活かして、5年生にダンスを教えるという、義務教育学校の特長を生かした授業が行われた。授業の最後には、授業の感想をタブレットを活用してお互いに送信させる際に、顔の見えない相手にメッセージを送る際の注意点について確認した。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 学校全体で**教科等横断的な視点での情報モラル教育の実践**を重点的に行ってきたことにより、特定の教科だけでなく、**どの教科においても情報モラルについて触れる**ことができることを全ての教員が確認し、指導することができた。また、年間指導計画の作成や校内研修を行ったことにより、教員の情報モラル教育に対する意識の高まりが見られた。
- SNSやオンラインゲームなどで情報を発信する際の注意すべき点やリスクを自分事として捉えることができるようになった。
- 様々な教科で情報モラルについて指導することで、日常生活の様々な場面が情報モラルと関連していて、場面や状況によって注意すべき点があることを確認することができた。

- 学校と保護者との情報モラルに対する認識の差はまだまだ大きいですが、**保護者を巻き込みながら（授業参観や保護者対象の講演会など）取り組んできた**ことで、徐々に保護者の意識が高まってきた。

2 課題

- 保護者の意識は高まってきたが、保護者対象の講演会以外の取組等でさらに**家庭との連携**を深めていきたい。
- ホームページの作成の授業を行ったが、どの学年でも取り組めるように発達段階に応じた指導内容を考え、全学年で授業を行っていきたい。
- 考え、議論する情報モラル教育の実践に向けて、情報を発信・受信する際の各個人の思いや考え、情報の信頼性・妥当性等について話し合いを深める機会を設定していきたい。

【引用文献・参考文献】

文部科学省（2017）．「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」．

文部科学省（2018）．「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」．

宗實直樹・椎井慎太郎（2022）．「GIGA スクール構想で変える！1人1台端末時代の社会授業づくり」．明治図書．

坂本旬・芳賀高洋・豊福晋平・今度珠美・林一真（2020）「デジタル・シティズンシップ コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び」．大月書店．